



ZENBUTSU

全仏

No.
572

仏暦2554年9月
[2011年]



青森・恐山 三途の川を渡る橋——撮影 仏像ガール®

目次	加盟団体をゆく 第44回 律宗	2
	シンポジウム「葬儀は誰の為に行うのか?②～お弔いとは?～」開催	4
	東日本大震災避難者受入寺院に支援金を拠出	6
	「首相及び閣僚の靖国神社公式参拝についての要請」を 菅直人内閣総理大臣に提出	7
	被災地支援活動を通じて学んだこと ～メンタルケアの現場から～ 前田宥全師	8
	比叡山宗教サミット24周年「世界平和祈りの集い」開催	10
	東日本大震災第2回支援検討会議開催	10
	念法眞教より「救援基金」へ寄託	12
	(社)全日本仏教婦人連盟主催 美輪明宏チャリティーコンサートのお知らせ	12



財団法人 全日本仏教会
JBF WFB(世界仏教徒連盟)日本センター

加盟団体をゆく

《第四十四回》律宗

ソフト面の充実も急務

― 律宗の活動について
お聞かせください

律宗は唐の高僧、鑑真大和上の教えを受け継ぎ戒律を守っていくことを旨とした宗派です。その教えを広めるべく、日々活動を行っております。

第二次大戦後、律宗総本山唐招提寺は他の寺院同様、戦争の影響もあり荒れ果てておりました。それを復興していったのが平成七年に示寂した森本孝順第八十一世長老であり、主要建造物の修理や茶室の移築、恐らく日本でも初であろう夜間の仏像ライトアップを、「観月讀仏会」として宗教行事に取り込んで行うなど、アイデアを生かして伽藍の整備を進めてきました。平成に入ってから、建造物の

国庫補助事業としては初めての構造補強修理となる金堂（国宝）の修復を十二年かけて行いました（平成十年から二十一年の調査工事、平成十二年から十三年の修理工事）。



石田智圓宗務長

示しております。文化財の保存と、教えの相伝の象徴として、この度の大修理は深い意味を担い続けていくでしょう。

今後はソフト面の充実も急務です。律宗は僧侶が

現在十八名という小さな宗門ですが、今後は門弟の教育に力を入れていこうと考えています。

中国仏教との親交厚く

平成二十一年十一月一日から三日にかけて、金堂完成の式典「唐招提寺金堂平成大修理 落慶法要」を行い、現在は講堂内を開放して修理の様子をパネルや模型等で展

唐招提寺は、唐の高僧・鑑真和上が創建されたという成り立ちの關係上、現在でも中国仏教と非常に密接な親交がございます。近年では僧侶が授戒する際に中国揚州から老師が授戒

今回は律宗総本山唐招提寺をお訪ねし、石田智圓宗務長にお話を伺いました。

唐招提寺は唐の高僧鑑真和上により天平宝字3年（西暦759年）に創建され、1998年に世界遺産に登録されており、多数の文化財を有することでも知られています。

作法の為に、また東日本大震災慰霊法要の際もご来日頂きました。揚州大明寺の鑑真学院名誉院長には、唐招提寺の長老が就任しております。

北京オリンピックに端を発したチベット問題の高まりの中、国内外で諸問題に揺れ動きましたが、その際に胡錦濤国家主席が来訪され、それに先立ち鑑真和上ゆかりの中国・揚州の大明寺住職能修（のうしゅう）方丈が来日し、当寺で長老と共に迎えしました。

政治的にはまだ解決していない問題も多々ありますが、いかなる時勢にも崩れない友好関係も大切ではないかと思えます。

― 東日本大震災後、様々な取組をされております

三月三十日（水）に、中国・揚州の能修方丈（大明寺住職）にご来日頂き「東北関東大震災罹災物故者追悼法要」を厳修致しました。法要の際に奈良県を通じて日本赤十字社へ二百万円（唐招提寺百万円、大明寺百万円）の義援金を手

交させていただきました。震災百箇日に当たる六月十七日（金）には、「東日本大震災物故者百箇日法要」を厳修致しました。

その他現在の支援に関しては境内に募金箱を設置し義援金募集の呼びかけを継続しており、奈良隣山会を通じて日本赤十字社等の支援団体に寄託を行っております。また九月頃に再度寄託を行う予定です。今後もできる限りの支援を継続していきたいと考えております。

人の和の大切さを 伝えるのが葬送

―現代社会に対してどのような
思いを抱いておりますか

人と人が接する機会であるはずの冠婚葬祭の現場ですら、つながりが薄くなってしまうてきている事を感じます。それが全ての社会問題の大元になっているのではないのでしょうか。

例えば葬祭に関しても、医療の進歩により高齢化社会が進み、葬

祭事情が変化しているのは理解できます。葬儀に関わる人、参列する人も以前よりは少数になる傾向があります。

しかし、そうした変化のみではなく、中には人が亡くなってもその人は家族じゃない、親戚じゃないから私には関係ない、と言い切る人にも遭遇するようになりました。

人と人の繋がりは急に作れるものではありません。僧侶側も葬儀等の際に丁寧な作法をしたり、お話を聞くことは非常に重要だと思いますし、そうした人の和の大切さを伝えるのが葬送の場の大きな役割の一つと考えています。今後、葬祭に関わる人々はより一層努力していく必要があると感じています。

―仏教界に対する思いを
お聞かせ下さい

各宗派、当然大なり小なり教義の違いはあります。しかし、もつと日本の各仏教宗派は他宗派との交流を行ったり他宗派の教義を積極的に学ぶべきではないか、と感じています。異なる宗派間の交流

によって広範囲な仏教の習得が可能なのは日本仏教の大きな利点であり、それをより生かしていくべきだと思います。

また、これは僧侶に限った話ではなく、檀家さんや一般の信者さんも行動してほしいと思います。例えば、いつもこの宗派のお世話になっているけど、違う宗派の教えを聞きにいたり、違う宗派の法要に参加してみる、といった事はどんどん行ってもらいたい、と思います。そこからより仏教の素晴らしさに触れてもらえらると思いますし、各宗派はそうした宗派を

超えて仏教に触れられる取り組みをもっと進めていくべきだと思います。

律宗には、鑑真和上傳来の授戒作法を行って欲しい、また授戒を行う為の戒壇を開放してほしい、という要請を頂く事があります。戒壇の開放は現在実現できておりませんが、今後は慎重に検討を重ねて実現し、より他宗派との密接な交流を行いたい、と考えております。

律宗（唐招提寺）ホームページ
<http://www.toshodaiji.jp/index.html>



東北関東大震災罹災物故者追悼法要



胡錦濤中国国家主席来日の模様

シンポジウム 「葬儀は誰の為にを行うのか?」② ——お弔いとは—— 開催

平成二十三年八月二日(火)午後六時より、昨年に引き続き一般参加者を公募したシンポジウム「葬儀は誰の為にを行うのか?」②——お弔いとは——を秋葉原コンベンションホールにおいて開催した。当日は報道を含め、定員を上回る約三百七十名が参加した。

昨年開催のシンポジウムには、大手流通企業が葬儀事業に参入し、その一環として僧侶紹介サービスやお布施の料金体系化を大きくアピールしたことに対し、本会が料金体系の削除を求めたことが話題となり、多くの参加者が集まった。閉会後に当日の参加者へ行ったアンケートを見ると、企業の葬儀関連事業参入の背景には、寺院や僧侶たちが今日に至るまで一般の人々に対して葬儀やお布施についての説明を行ってきたためだという意見が多く寄せられた。本年はいただいた意見を踏まえ、僧侶側からではなく消費者や葬儀関連事業に参入した企業からの視点で

「葬儀」の意義を改めて考えるべく、昨年に引き続きシンポジウムを開催した。

内容は、昨年同様二部形式で行われ、第一部では四名のパネリストによるテーマに沿った講演が約



十五分ずつ行われた。テーマと講師は左記の通り。

一、消費者アンケートから見える「お弔い」

佐伯 美智子氏

(日本消費者協会教育啓発部教育課長)

二、葬儀が変わる

広原 章隆氏

(イオンリテール株式会社イオンライフ事業部部长)

三、仏教は何のために、誰のためにある教えか

林 数馬氏

(株式会社おぼうさんどっとこむ代表取締役 僧侶)

四、過去十年間の相談内容の推移——テレフォン相談を通して見る葬儀・寺院・僧侶への意識の変動——

五井 観章氏

(仏教情報センター事務局長 経王寺住職)

佐伯氏は、日本消費者協会において取りまとめた「墓」「葬儀サービス」についての相談内容や葬儀費用の平均金額表などのデータを用いて、消費者側から見た葬儀費用に対する意識を説明した上で、

今の消費者は、マスコミ等がこの問題を取り上げることによって意識の高まりが見られるが、重要なのは「弔い」の精神性は物やサービスの取引とは別物であり、葬儀費用はサービスの対価として支払うものではないという強いメッセージを寺院や僧侶が発信する必要があると訴えた。

広原氏は、布施料金体系化で問題となった「イオンのお葬式」サービスについて、事業を立ち上げた経緯を、自身の父親の葬儀経験と、明瞭で納得のいく心のこもった葬儀を行って欲しいという社員たちの声によって一年以上の研究期間を費やしたと述べた上で、事業内容ともからむが、イオンの目指すお弔いとは、故人への敬意だけではなく、遺族や会葬者に対しての気遣いであり、今後もお客様の意見を反映した事業を行ってゆくと抱負を述べた。

林氏の講演では、まず自身の経営する株式会社おぼうさんどっとこむの会員データを元に葬儀形態の分析結果を提示。近年の葬儀は宗派を指定せずに葬儀を行う方が増えていると説明した。この結果

について、金額的な面で宗派を指定しない方もいるが、僧侶から一般の方々へ仏教の教えについて説明を怠ってきたこともその要因の一つではないかと述べた。

互井氏の講演では、自身が事務局長を務める仏教情報センターで一般の方々から受けた相談内容について触れ、最近新しい形態の葬儀（直葬や生前葬）についての相談が増えていることに注目し、以前の葬儀は寺檀関係を含め近所の方々や親せきなどで営むものであったが、最近是一般の方々や他者との付き合いを拒む傾向にあり、特に都市部で行われている葬儀は、こういった方々のニーズと違ってきてしまっているのではないかと述べた。

休憩をはさみ行われた第二部は、来場者の質問用紙により寄せられた質問をもとに戸松義晴本会事務総長がコーディネーターとなってパネルディスカッションを行った。質問内容の多くはやはり布施に関するものが多く、布施金額の目安についての質問に対しては、

「消費者の立場から布施金額に悩む方の多くは、寺檀関係が普段



全くない方で、そういった方についてはある程度の布施金額の目安は必要とも考えている（佐伯氏）」「布施金額については地域によつての風土風習に対応することも必要である（広原氏）」

等の意見が出された。また、僧侶を商品として派遣することは布施がサービスの対価になるのではないかという質問に対しては、

「現在の日本に合う方法で仏教を広める必要がある。本来、寺院が地域コミュニティの中心として、しっかり布施については話し合っておく必要がある。しかし寺院がその責務を放棄しているのが現状。金額の提示はサービスとして、また社会貢献として行うべき（林氏）」

「サービスという言葉には違和感を感じる。その反面、コミュニティの中心となるべきである僧侶の教育について、宗派が怠ってきたことは僧侶側も反省すべき点である（互井氏）」と意見は分かれた。また、戒名の必要性についても議論され、こうした問題が議論される時点で宗教者の説明不足が根底にあるのではないかと意見や、戒名をつける側とつけてもらう側の普段からの付き合いが大切で、それによって戒名の受け止め方は変わる等、様々な意見が交わされた。

また、今後の『全仏』誌において、各パネリストの寄稿によつて、プロフィールや講演内容の詳細を掲載する予定です。



パネルディスカッションにて討議する各パネリスト

東日本大震災避難者受入寺院に支援金を拠出

東日本大震災後の復興に向けて被災地でボランティア活動や被災者の受入を行っている団体及び寺院へ本会「救援基金」より、支援金の拠出を行いました。(六月末日まで)

この支援金拠出に関しては五月九日に開催された東日本大震災第一回支援検討会議にて決定されました。今後の支援に関しては八月八日に開催された東日本大震災第二回支援検討会議で確認された事項に基づいて行われる予定です。(関連十頁)

支援先一覧 (順不同・敬称略)

■避難者受入寺院■

岩手県

大槌町

曹洞宗 吉祥寺

浄土宗 大念寺

大船渡市

曹洞宗 龍昌寺

日蓮宗 本増寺

真言宗智山派 長源寺

真言宗智山派 圓滿寺

釜石市

曹洞宗 石応禅寺

日蓮宗 仙寿院

日蓮宗 日顕寺

高野山真言宗 釜石教会

宮古市

曹洞宗 常安寺

曹洞宗 常運寺

真宗大谷派 善林寺

高野山真言宗 弘法寺

真言宗智山派 長根寺

山田町

曹洞宗 龍昌寺

日蓮宗 善慶寺

日蓮宗 瑞然寺

陸前高田市

真宗大谷派 正徳寺

浄土宗 莊厳寺

浄土宗 浄土寺

臨済宗妙心寺派 華藏寺

臨済宗妙心寺派 慈恩寺

真言宗智山派 長圓寺

真言宗智山派 金剛寺

宮城県

石巻市

曹洞宗 法山寺

曹洞宗 洞源院

曹洞宗 金蔵寺

曹洞宗 梅溪寺

曹洞宗 大永寺

曹洞宗 峰耕寺

曹洞宗 多福院

浄土宗 西念寺

浄土宗 西光寺

日蓮宗 法音寺

臨済宗妙心寺派 慈恩院

臨済宗妙心寺派 禅昌寺

真言宗智山派 普誓寺

岩沼市

臨済宗妙心寺派 恵洪寺

女川町

曹洞宗 保福寺

曹洞宗 照源寺

角田市

浄土宗 定迎寺

北上町

曹洞宗 長観寺

気仙沼市

曹洞宗 仙翁寺

曹洞宗 清涼院

曹洞宗 興福寺

曹洞宗 海蔵寺

曹洞宗 少林寺

曹洞宗 青龍寺

浄土宗 浄念寺

臨済宗妙心寺派 淨福寺

真言宗智山派 光明寺

塩竈市

臨済宗妙心寺派 願成寺

臨済宗妙心寺派 東圓寺

臨済宗妙心寺派 松林寺

臨済宗妙心寺派 慈雲寺

七ヶ浜町

曹洞宗 鳳寿寺

臨済宗妙心寺派 金剛寺

臨済宗妙心寺派 葦航寺

白石市

臨済宗妙心寺派 傑山寺

仙台市

浄土宗 蓮光寺

浄土宗 愚鈍院

浄土宗 大法寺

多賀城市

臨済宗妙心寺派 不磷寺

臨済宗妙心寺派 寶國寺

名取市

臨済宗妙心寺派 大聖寺

東松島市

曹洞宗 法昌寺

曹洞宗 願成寺

曹洞宗 清泰寺

臨済宗妙心寺派 定林禅寺

松島町

浄土宗 歸命院

臨済宗妙心寺派 瑞巖寺

南三陸町

曹洞宗 海蔵寺

曹洞宗 清水寺
曹洞宗 大雄寺

福島県

いわき市 浄土宗 浄應寺

日蓮宗 妙法寺

高野山真言宗 冷泉寺

高野山真言宗 如来寺

臨済宗妙心寺派 龍光寺

川俣町

真宗大谷派 麟生寺

相馬市

浄土宗 興仁寺

日蓮宗 佛立寺

南相馬市

浄土宗 浄圓寺

山形県

米沢市

浄土宗 龍泉寺

茨城県

大洗町

高野山真言宗 西光院

常陸太田市

浄土宗 香仙寺

埼玉県

越谷市

浄土宗 安國寺

千葉県

松戸市

浄土宗 東漸寺

富山県

魚津市

日蓮宗 真成寺

(八月二十四日現在)

以上

被災地支援活動団体の一覧、最新情報は本会ホームページをご覧ください。
<http://www.jbfn.jp/>

本会では国内外における災害救援や人道的支援等に対し、緊急且つ迅速な対応をすべく「救援基金」を常設しております。

今後も、現地で被災された方々に最も役立つ方法を地域仏教会、仏教系NGO団体等と協力しつつ、被災者支援を継続して行っていく予定です。

つきましては今回の災害に対し、加盟団体、各寺院、檀信徒、門信徒のみなさま、そして宗派・宗教を超えて、みなさまの温かい浄財をお寄せ頂ければ幸いです。

尚、救援金は下記口座までお寄せ頂きますようお願い申し上げます。

※指定寄付の場合は「東日本大震災」と振替票にご記入ください。

合 掌

記

郵便振替口座

口座番号

00110-9-704834

口座名義 全日本仏教会救援基金

「救援基金」寄付者一覧

(七月十二日～八月二日)

能泉寺

鳴門市仏教会 (徳島県)

愛知県仏教会

浄業会

滋賀県仏教会

小千谷市仏教会 (新潟県)

愛媛県仏教連合会

桃林寺

念法眞教

弘済寺

(順不同・敬称略)

合計

五百七十一万五千九百六十八円

ご支援、誠にありがとうございます。また、今回の合計金額に、八月二日本会主催シンポジウム会場における寄付も含まれております。

「首相及び閣僚の靖国神社公式参拝についての要請」を菅直人内閣総理大臣に提出

標記の件に関して、八月十日(水)午後三時四十分菅直人内閣総理大臣へ有田恵宗本会理事長名の要請文を提出した。要請文は戸松義晴本会事務総長より福山哲郎内閣官房副長官に手交した。

この度の要請文は、靖国問題を日本と中国・韓国などアジア諸国との政治・外交上の問題として捉えて提出したものではありません。本会はいくまでも「信教の自由」と「政教分離の原則」を堅持すべきという理由から参拝反対の要請文を提出いたしました。

要請文の全文は、本会ホームページにてご覧下さい。
<http://www.jbfn.jp/>



戸松義晴本会事務総長(右)より福山哲郎内閣官房副長官(左)へ要請文を手交

被災地支援活動を通じて学んだこと （メンタルケアの現場から）

東日本大震災支援の為、僧侶が現地でボランティア活動や心のケア活動を行う機会が増えました。

その際、僧侶が何を心がけるべきかについて、自殺対策に取り組む僧侶の会副代表、財団法人メンタルケア協会精神対話士の前田宥全師（曹洞宗 正山寺住職）にお話を伺いました。

前田師は、自坊にて「あなたのお話し お聴きします」と題した相談活動（無料、予約制）を常時行っております。また、メンタルケア協会からの要請で被災地に入り、心のケア活動も実際に行いました。



前田宥全師

「あなたのお話し お聴きします」の、無料相談活動を始めたきっかけは？

私の実家のお寺では、父が三百六十五日、朝の六時から本堂正面を開けて、本堂の隅に机を出して寺務を行っており、ひっきりなしに信者さんが訪れて住職と対話をしていました。それがごく当たり前の寺の姿だと思っていました。

自分が住職としてこの寺に入った時に、「境内の中にある自分の家の墓地にはお参りするが、住職とは特に話はしない」というあり方がとても寂しく感じましたので、この無料相談の活動を始めさせて頂き、今日まで続けてきました。

また、僧侶として生きている年月を重ねていくにつれ、自分の生き方に関して考える機会も増えました。私は僧侶として生きていくということは、「仏教を規範として仏戒を得て生きていく」こと、と考えています。

仏教を規範として生きていく、という事を掘り下げると「社会苦と向き合う」という事だと思えます。僧侶は、煩惱は尽きる事はないけれど、衆生の煩惱が消滅するよう願い実践する、という誓願を立てて生きている以上、世間の社会苦に対して向き合い努力していかなくては僧侶としての自己の生き方が成り立たないのでは、と思っています。

自分の僧侶としての生き方を考えていくにつれて、この無料相談を行っている意味や、社会的な役割をより考えていくようになりました。この活動はずっと続けていくつもりです。

——実際に被災地にてメンタルケア活動を行って感じたことは？——

私は福島県相馬市に、メンタルケア協会としての役割を依頼されて現地入りしました。保健士や医師は既に現地入りしていましたが、現地の実態、特に小さい子達の状態が把握できていなかったなので、

被災した方と行政の間に入って活動してほしい、というのが最初の依頼でした。

現地で一通りの活動を終えた後、関係した保健士や医師に私は自分が僧侶である事を告げました。すると、泣きながらつらさを吐露する方が沢山いらっしゃいました。

被災地では多くのボランティアや専門家が活躍されており、そうした人々はやり甲斐に満ちていて時には輝いているな、と感じる事も多々あります。しかし、そうした方々も被災地では常に高いリスクと隣り合わせで活動しているプレッシャーを感じています。

そうした方々に対して、僧侶だから、宗教者だからこそできる精神的なケアは沢山あるのではないかと改めて実感させられました。

——僧侶が被災地活動を行う際、気を付けること、心がける事はありますか？——

私が行っている相談の受付にしても、被災地でのボランティア活動にしてもそうなのですが、「自

分としての生き方を満たすため、自我を満たす為に行っている」という自覚や意識を持った上で、出来ることをさせて頂くというスタンスが大切だと思います。誰かの為にやってあげている、という意識を持ってしまつと、相談者や被災者を傷つけてしまつたり、あらぬ誤解を受けてトラブルに発展してしまう事が多いように感じます。

また、現地の状況に極力配慮すること、ニーズのリサーチを行う事も重要です。読経や葬儀のボランティアを行う場合も各地域のなわらしに配慮することはとても重要です。縁の下の力持ちに徹して本当にできることを行う事が重要だと思います。

「現地で本当に求められている事以外はしない」というくらい徹底した考えの方がトラブルは起きにくい、私も以前はそうのように考えていました。例えば僧侶が行っている支援活動に現地の方からクレームが来た、という事態にも実際に直面しました。

しかし、多くの活動の場合、全

員が賛成するわけではなく、全員が反対するわけではありません。「一人でも批判や反対があれば行くべきでない」という考え方がある一方「一人でも求める人があるのであれば行くべき」という考え方も僧侶としては当然あるべきであり、私も相談活動や被災地での活動を続けていくうちに、求める人があれば行くべきと考えるようになりました。

現地で意見の食い違いが発生した場合、謙虚な姿勢を保ちつつ宗教者としての活動を行い、チームとしての調和を保ちながら活動する事が重要だと思います。

— 今回の震災と、自死問題に関する点についてお考えをお聞かせ下さい —

表だって報道されている、震災による直接の被災者の生活や風評被害は大変問題であり、今後充分なケアが必要と考えています。

しかし、今後より大きな隠れた問題になってしまうのでは、と危惧しているのは「震災の直接の被

害者ではないにもかかわらず、震災により精神的ダメージを受けている人々」の問題です。

例えば、風評被害を真に受けてしまつて現在の日本に絶望してしまっている人々や、本来は震災とは直接関係がない私生活の問題なのに、震災を大きな一つの節目として「これで何もかもおしまいだ」と生きることに絶望してしまふ人々が少なくありません。そして、そうした影響に目を向けている人々が少なく、今後社会問題化してしまふのでは、と危機感を募らせています。

震災に対する補償でも地域差が大きいように、今回の震災の隠れた影響に関しても地域差が大きいように感じます。生きる力をどう取り戻していつてもらうかは今後の大きな課題になってくるのでは、と思います。

— 今回の震災は仏教界にどのような課題を投げかけたと思いますか？ —

今回の震災で仏教界が直面した

様々な課題は震災で新たに発生したのではなく、元々日本の仏教界が抱えていた課題が震災をきっかけにして噴出してきたものだ、と思います。例えば宗教に対する一般の人々の疑念であったり、僧侶自身の価値観の問題等々です。その課題を解決するためには、活動の方法は一人一人違つてよいと思うのですが、僧侶自身が現代における宗教の必要性に気付き、社会苦と向き合い、人々の苦しみに寄り添い続ける覚悟を持てば社会の評価はおのずと変わってくるのではないか、と思います。

(談)

正山寺ホームページ

<http://shosanji.jp/>

自殺対策に取り組む僧侶の会ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/bouzsanga/>

財団法人メンタルケア協会ホームページ

<http://www.mental-care.jp/>

比叡山宗教サミット二十四周年

「世界平和祈りの集い」開催

八月四日（木）に「世界平和祈りの集い」が滋賀県大津市の比叡山延暦寺で開催され、約九百人が参集。本会より戸松義晴事務総長が参列した。

比叡山宗教サミットは、宗教・宗派を超えて宗教者が集い、平和の祈りを捧げる行事であり、「天台青少年比叡山の集い」も同時に開催されている。本年は東日本大震災犠牲者の慰霊と被災地の早期の復興を願って祈りが捧げられた。

般若心経等による法楽の後、半田孝淳天台座主により平和祈願文が奉読された。世界各地で相次ぐ巨大地震に対し「便利さ豊かさを過度に追い求め、あるべき調和と抑制を怠った我々への警鐘・試練と思われてなりません」と述べ、犠牲者追悼と震災復興を願った。

その後、仏教、キリスト教、イスラム教、神道、新宗教など各団体からの代表が壇上へ登り、「平和の鐘」の音が響く中、参加者全員起立にて黙祷が捧げられた。

祈り終了後、松長有慶高野山真

言宗管長が「平和を語る」と題し講演。国家間の紛争は資源の争奪や民族対立が原因になっていて、欲望を制御し異質なものを受け入れる仏教の智慧の発信を説いた。

ローマ教皇庁諸宗教対話評議会のジャン・ルイ・トラン議長、WFB（世界仏教徒連盟）のパン・ワナメッティ会長のメッセージが読み上げられ、青少年会からユニセフへ寄付金を寄託し「平和の合言葉」唱和の後に閉会。

閉会后、延暦寺会館にてレセプションが行われ、戸松義晴事務総長が乾杯の挨拶を行い、今後、宗派・宗教を超えた連携をより進めていきたいと述べた。



壇上で祈りを捧げる宗教者代表

東日本大震災第二回支援検討会議を開催

八月八日（月）、全日本仏教会会議室にて、東日本大震災第二回支援検討会議を、委員全員出席のもと開催した。

まず、以下の通りの第一次支援活動報告が事務総局より行われた。

- 一、避難所寺院及び救援・支援活動団体への緊急支援について
- 二、「福島第一原子力発電所事故から子どもたちを守る要望書」提出について
- 三、腕輪念珠の寄贈について
- 四、指定寄附金制度の運用に関する説明会について

次に、第二次支援活動についての検討課題が事務総局より提示され委員に諮られた。検討の結果、以下の通りの支援方針が確認された。

- 一、避難所寺院について、今後、新たに判明した時点で支援を行う
- 二、支援活動団体について、現在保留中の団体には従来通りの支援を行い、その他の団体には、第二次支援活動方針に照らし合わせて支援を検討していく
- 三、救援基金の枠組みについて、緊急時に備えて震災前の水準である二千五百万円を維持し、残る約三千五百万円の枠で第二次支援を行う
- 四、第二次支援活動について、被災地域仏教会の所在確認と連絡手段の確立、さらに公益事業に即した内容の活動について支援金を拠出していく。また、報告書を提出していただき、それを公表する
- 五、後援等について、従来の名義後援に順じ、補助金等は支出しない
- 六、仏教NGOネットワーク及び全日本仏教青年会に対し、今後の状況をふまえて支援の継続を検討する
- 七、義援金について、十月一日（土）以後は救援基金の募集を呼びかけ、その中で東日本大震災の指定寄附として取扱う。また今後の支援計画を記載した中間報告を行い一般に向け広報するとともに、それまでに寄託をいただいた個人・団体へも報告を行ない、併せて感謝状を贈る
- 八、福島県の実地問題について、今後も関係者、関係団体等から情報を収集し検討していく

事務総局録事

七月（二日～三十一日）

- 一日▼日本仏教鑽仰会主催「東京お盆まつり」出席（銀座プロッサム）
- ▼同宗連部落解放基礎講座参加（真言宗豊山派宗務所）
- 四日▼『全仏』誌取材（法相宗興福寺・律宗唐招提寺）
- 五日▼静岡県仏教会稲井弘宣会長他二名来局（救援基金寄託のため）
- ▼全日本葬祭業協同組合連合会松本氏来局
- ▼日本宗教連盟幹事会・理事会出席（本会会議室）
- ▼長崎県仏教連合会総会・研修会・懇親会（事業説明のため出席）
- 七日▼佐伯氏と面談（シンポジウム打合せ）
- 八日▼「墓地・墓石に関する消費者意識調査」について申請状況報告と第二回委員会出席（日本石材産業協会事務所）
- ▼平成二十三年第一回全日本仏教会関西支局運営委員会・局内会議出席（京都）
- 十三日▼部落解放同盟中央本部新事務所移転報告会出席（中央区入船）
- 十九日▼平成二十三年度不活動宗教法人対策推進会議・第二十二回宗教法人制度の運用等

に関する調査研究協力者会議・懇親会参加（文化庁）

二十日▼（財）埼玉県佛教会木村副会長来局

▼大和証券佐藤氏来局（シンポジウム打合せ）

▼毎日新聞社来局（取材）

二十一日▼藤谷光信参議院議員秘書脊尾氏来局

二十二日▼立正大学学園秘書課訪問

宗教法人と税制に関する調査研究第一回調査会出席（本会会議室）

岐阜県大興寺来局

正山寺前田師訪問（取材）

二十五日▼局内会議

真宗大谷派田代賢治東京宗務出張所長来局

自由民主法曹団七月定例会出席（自由民主党本部）

二十六日▼福島県安養寺遠藤師来局

二十七日▼NHK来局（取材）

国際交流審議会

日本宗教連盟幹事会出席（本会会議室）

二十八日▼無料法律相談

念法眞教一宮総務部長来局（救援基金寄託のため）

▼第六回社会人権審議会

▼第一回全日本葬祭業協同組合連合会合同慰霊祭準備委員会出席（品川プリンスホテル）

二十九日▼厚生労働省人道調査室松本室長来局

損保ジャパン佐々木氏来局

八月（二日～十五日）

一日▼NHK来局（取材）

二日▼シンポジウム「葬儀は誰の為に行うのか?②」（秋葉原コンベンションホール）

四日▼比叡山宗教サミット出席（比叡山）

八日▼NHK宮本氏来局

八日▼東日本大震災第二回支援検討会議開催（本会会議室）

九日▼大蔵経研究推進会議出席（東京大学仏教青年会セミナー室）

▼局内会議

経済産業省中内室長・山岡室長補佐来局

十日▼外務省大野室長・三木外務事務官来局

▼首相及び閣僚の靖国神社公式参拝についての要請文を提出（首相官邸）

十一日▼無料法律相談

十二日▼第二回全日本葬祭業協同組合連合会合同慰霊祭準備委員会出席（本会会議室）

十五日▼日蓮宗主催 千鳥ヶ淵戦没者追悼供養並世界立正平和祈願法要参加

訂正

前号（五七一号）十四頁「暑中協賛」において、孝道教団に関して誤りがございました。

（誤） 統理 岡野 正貫
（正） 統理 岡野 正純

関係各位に心よりお詫び申し上げます。

表紙写真紹介

「青森・恐山 三途の川を渡る橋」

本州の最北端、青森県の下北半島にある恐山。バスを降りて迎えてくれたのは、ふわっと漂う硫黄の香りと乳白色の美しい湖、そして「さんずかわばし」と名前がついた真つ赤な橋。思っていたよりもずっと爽やかで清々しい空気に、すこし怖そうな場所という勝手な先入観は、一気にふきとびました。山内は、見渡す限り石ころの山。大きくゴツゴツしている石、遠くにボツンとある石、お地藏さまの顔にみえる石。それぞれちがう表情の石の山の中を歩いていると、だんだんと積まれた石のひとつひとつが「魂」のように思えてきました。

私というひとつの命は、父と母の命から生まれて、その前にはおじいちゃんおばあちゃんがいて、たくさんのご先祖さまがいて、今がある。数え切れないくらいの「命」がつながって、今私の命が存在している。当たり前だけれどつい忘れてしまいがちな大切なことを、石ころたちが教えてくれました。

「ただ生きればいいんだよ」と、背中をポンと押してもらえた気がします。ご先祖さま、ありがとう。

仏像ガール®

念法眞教より「救援基金」へ寄託

7月28日（木）、本会救援基金への300万円の寄託を、一宮良範念法眞教総務部長より、戸松義晴事務総長へご手交いただきました。

本会では、自然災害の緊急支援や人道的支援を行うため、常設しております「救援基金」より様々な支援活動を行っております。今後も皆様のご協力をお願い申し上げます。（関連6、7頁）

救援活動に関する最新情報は本会ホームページをご覧くださいませ。

<http://www.jbf.ne.jp>



一宮良範念法眞教総務部長（右）より
戸松義晴事務総長（左）へ義援金を手交

美輪明宏 チャリティーコンサート



開催月日

2011年11月29日(火)

- ◆時間：開場17：30 開演18：00
- ◆会場：ゆうぽうとホール
(JR五反田駅より徒歩5分、
東急池上線・大崎広小路駅前)
<http://www.u-port.jp/hall/index.php>
- ◆出演：美輪明宏
演奏：セルジュ染井アンサンブル
- ◆料金：S席 9,000円
A席 7,000円 } (税込)
B席 5,000円 }
- ◆主催：(社)全日本仏教婦人連盟
- ◆後援：(財)全日本仏教会
東京都仏教連合会
- ◆企画・制作 株式会社オフィスミワ

チケットのお申し込みは、
FAX 03-5772-0677 もしくは下記
お申し込みフォームよりお申し込み下さい。
<http://jbfw.jp/charity/miwa/form.cgi>

お問い合わせ先：(社)全日本仏教婦人連盟 TEL 03-5772-0677